

講演会

「高齢化がもたらす社会病理—増加する高齢者万引きと認知症問題への対応を考える—」

主催：東京都青少年・治安対策本部

(平成 29 年 7 月 7 日 於：東京ウィメンズプラザホール)

社会経済状況の変化と高齢者の万引き

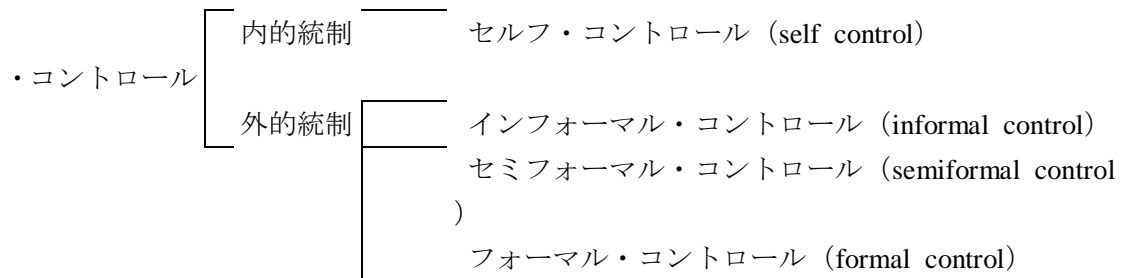
中央大学教授（有識者研究会座長）矢島 正見

はじめに

- ・総論的全体的考察。
- ・各論と具体的データからの解説は、他の先生に。

1. コントロール（社会統制）という視点から

1) コントロールの種類



2) 4つのコントロール

- ・セルフ・コントロール…自己統制、自己規制、自己管理、自己抑止。
- ・インフォーマル・コントロール…第一次集団（primary group）内の愛情に基づいた統制。親密な関係集団の親和的統制。家族、近隣集団、仲間集団。
- ・セミフォーマル・コントロール…制度的親和的統制。学校・学級集団。職場集団。宗教集団。／…地域や民間での組織化された統制。警備会社、NPO 団体の統制。かつての地域集団（例：村八分）
- ・フォーマル・コントロール…刑事司法諸機関の統制。法的権限をもった公的統制。警察、裁判所、行政の統制。

3) コントロール（統制）の内実

- ・管理すること、調整すること
- ・禁止すること、監視すること、罰すること
- ・ほめること、推奨すること
- ・愛すること、支配すること、洗脳すること

4) コントロールの時代変容

- ・地域統制力の解体化
- ・親族（同族集団）の解体化
- ・家族統制力の弱体化

5) 万引き高齢者のコントロール

- ・インフォーマル・コントロールの喪失…親族との疎遠化、地域での孤立化、家族関係の解体化、仲間集団の希薄化。
- ・セミフォーマル・コントロールの喪失…職場集団の喪失。
- ・中間的コントロールの喪失状況。残っているのはセルフ・コントロールとフォーマル・コントロール。
- ・こうした喪失状況の出現は、今に始まったことではなく、中年期から60歳代前半にかけてのことと推測し得る。
- ・認知障害がある場合は（たとえ、初期であったとしても）、セルフ・コントロールすら弱体化。
- ・万引き現場での客観的状況把握が弱体化。
- ・欲望を抑止する自己統制が弱体化。
- ・自己統制ができない場合、直ちに公的統制にさらされる。

2. 集団関係という視点から

1) 内集団（in-group）と外集団（out-group）

- ・日本的には「ミウチ」「ヨソ様」「ヨソ者」の三層構造
- ・運命共同体・責任共同体としてのミウチ
- ・「世間」としてのヨソ様
- ・世間のもつ「世間体」という生活行動規範
- ・世間体からの逸脱としての「恥」（「世間様に顔向けができない」）（本人の恥、ミウチの恥）

2) コントロールとの関係

- ・ミウチ…インフォーマル・コントロール
- ・ヨソ様…インフォーマル・コントロール、セミフォーマル・コントロール
- ・ヨソ者…コントロール外（統制力なし）

3) 「ミウチ」「ヨソ様」「ヨソ者」の時代変容

- ・ミウチの縮小化・解体化
- ・ヨソ様の希薄化
- ・周りじゅう他人の社会
- ・世間、世間体、恥の喪失化

4) 万引き高齢者の三層構造

- ・ミウチの縮小化・解体化
- ・ミウチを頼れない将来性
- ・ヨソ様の希薄化
- ・周りじゅう他人の社会
- ・世間、世間体、恥の喪失化
- ・万引き高齢者の場合、時代状況をまさに反映

3. 二つの政策

1) 今すぐできる政策（現場での予防）

- ・スーパー、コンビニ等での「声かけ運動」…客へのサービス活動。結果としての統制活動。
- ・買い物という現場におけるセルフ・コントロールの覚醒化。…「欲望>統制」⇒「欲望<統制」

2) 中期的政策（関係性の改善、コントロールの復活）

- ・インフォーマル・コントロール、セミフォーマル・コントロール、フォーマル・コントロールの三位一体化…「自助－共助－公助」のシステム化
- ・コミュニティ内での関係性（統制）の構築。居場所の構築。